

コーパスを用いた『白雪姫』の会話分析

深 谷 修 代*

要 約

本稿ではグリム童話の『白雪姫』(“Snowdrop” (“Snow White”))を取り上げ、言語統計学的な分析を試みる。語彙頻度検索を行ったところ、you が大規模コーパスと異なって高頻度で使用されていることから、特に会話に焦点を当てた分析を行う。そして『白雪姫』の人間関係に関して、言語習得で提唱されている Tomasello (2003) の三項関係を適用し、登場人物の特徴を捉えていく。

キーワード：コーパス、会話、三項関係、子どもの言語、クラスター分析

1. 序

1.1 はじめに

本稿では、グリム童話で有名な『白雪姫』(“Snowdrop” (“Snow White”))を取り上げ、AntConc などのコンコーダンスを用いると、テキストの特徴を効果的に把握できることを示す。例えば機能語の頻度解析の結果、you が高頻度で使用されていることが判明したので、会話が重要な働きをしていると推測できる。さらに、Tomasello (2003) が言語習得で仮定している三項関係を適用し、白雪姫とお妃の人間関係の違いを指摘する。

1.2 Mahlberg (2012)

コーパス言語学の立場から文学作品を分析した Mahlberg (2012) を取り上げ、語句の選択と登場人物との関係を提示する。Mahlberg (2012) は単語の連なり(クラスター)を分析すると、登場人物の解釈に役立つことを示している。例えば Charles Dickens の *Bleak House* を取り上げ、5 語から構成され、かつ 15 回以上使用されているクラスターを抽出した。その結果、97 件該当するが、2 人の登場人物 — Bucket と Tulkingshorn — を表すクラスターには違いがあることを明らかにしている。(1)を見てみよう。(1)には両方とも称号が含まれているが、これらはすべて Bucket に関する表現で、Tulkingshorn を表すクラスターは該当しない。

- (1) a. Sir Leicester Dedlock Baronet and
b. Sir Leicester Dedlock Baronet I

(Mahlberg 2012 : 82)

また体の一部を含むクラスターにも違いがある。例えば、(2a)は *Bleak House* 全体で 8 件観察され、そのうち 6 例が Tulkynghorn に関する表現である。(2b)は 5 件中 2 件が Tulkynghorn に関係している。(1)と異なり、Bucket に対応するクラスターは 1 例も該当しない。

- (2) a. with his hands behind him
b. his hands in his pockets

2. 語彙頻度

2.1 全体の特徴

英語ではどのような単語が高頻度で使用されているのだろうか。Stubbs (2002) は、大規模コーパスで知られる Lancaster-Oslo/Bergen Corpus of British English (LOB コーパス) に登場する語の頻度を調べた。機能語に限定すると上位 10 語は(3)の通りである。なお、最頻出語は the で左側から降順に列挙している。

- (3) the, of, and, to, a, in, that, is, was, it

(Stubbs 2002 : 126)

また Lindquist (2009) は、1 億語を網羅する British National Corpus (BNC コーパス) を取り上げ、高頻度語のリストを提示している。機能語の上位 10 語は(4)のようになる。

- (4) the, of, and, a, in, to, it, is, was, to

(Lindquist 2009 : 28)

LOB コーパスと BNC コーパスを比較すると、順位に違いはあるものの、上位の機能語は(3)の that を除いて全て同じ特徴を示している。

さらに Stubbs (2002) は、“Eveline” (James Joyce 著、*Dubliners* に収録) で使用されている機能語を調査し、LOB コーパスとの共通点と相違点を指摘している。“Eveline” で使用されている高頻度機能語は(5)の通りである。

- (5) the, her, she, to, had, of, and, he, a, was

(Stubbs 2002 : 126)

LOB コーパスと同様に、“Eveline” においても the が最もよく使用されている機能語であることがわかる。さらに、her, she, had, he は “Eveline” で特徴的に多く現れている語である。Stubbs (2002) によると、her と she は Eveline に言及し、he は Frank または Eveline の父を指している場合が多い。

2.2 『白雪姫』

2.2.1 はじめに

『白雪姫』で使用されている高頻度機能語を調べ、LOB コーパスや BNC コーパスと比較してみよう。そして両コーパスと共通して高頻度で使用されている語、さらに『白雪姫』のみで高頻度に用いられて

いる語があるか確認する。高頻出語を明らかにすることによって、『白雪姫』の全体的な特徴が見えてくるだろう。

本分析で使用する『白雪姫』のテキストは、2012年8月4日に Project Gutenberg（フリーの電子テキストアーカイブ）からダウンロードした^①。Project Gutenberg が提供しているテキスト情報は(6)の通りである。

(6) Snowdrop (The Red Fairy Book by Andrew Lang) [#540]

角括弧内の数字は、Project Gutenberg が各作品に付与している識別番号である。また、*The Red Fairy Book* には “The Princess Mayblossom” (『サンザシ姫』) や “Jack and the Beanstalk” (『ジャックと豆の木』) などの作品も収録されているので、『白雪姫』以外のテキストはあらかじめ削除した。

2.2.2 AntConc の分析結果

語頻度解析には、Anthony 教授が開発した AntConc コンコーダンサを使用する。『白雪姫』の高頻度機能語上位 10 語は表(7)の通りである。本分析では語の生起場所（文頭、文中など）ではなく、頻度に焦点を当てるため、“Treat all data as lower case” にチェックを入れて検索を行った。これによって、The と the が 1 回ずつ観察されたとすると、the が 2 件観察されたと見なされる。

(7)

順位	語	頻度
1	the	212
2	and	159
3	she	111
4	her	76
5	as	71
6	to	61
7	in	51
8	a	44
9	you	42
10	they	40

(7)と LOB コーパス(3)および BNC コーパス(4)とを比較してみよう。興味深いことに、the の頻度が共通して最も高い。さらに『白雪姫』においても and, to, in, a の頻度が高いことが示された。それでは、『白雪姫』に特徴的な機能語はあるだろうか。(3)や(4)と異なって、人称代名詞が 10 位以内に入っている (she, her, you, they)。さらに “Eveline” (5)と比較すると、『白雪姫』は 3 人称代名詞に加えて 2 人称代名詞が 9 位に位置している。したがって、you が『白雪姫』において重要な働きをしていると考えることができる。

2 人称代名詞が高頻度で用いられているということは何を意味しているのだろうか。2 人称代名詞は、話し手に対して聞き手、または書き手に対して読み手を指す単語なので、『白雪姫』では出来事の記述

で終わるのではなく、会話が多く使用されていると予測できる。you がどのような環境で使用されているかを明らかにするため、AntConc の Concordance 検索 (Key Word in Context (KWIC) 検索) を行った。その結果が表(8)の通りである。なお、誰から誰に対しての発話かを明確にするために、2 番目の列に「発話者 (話し手, 書き手) → 聞き手, 読み手」を記す。例えば「鏡→お妃」は、当該の発話者は鏡で聞き手はお妃であることを示している。また、you を含む発話は紙面の関係上、関係する部分を抜粋した。

(8)

類出順	発話者	発話
1	鏡→お妃	You are most fair, my Lady Queen ...
2	鏡→お妃	My Lady Queen, you are fair, 'tis true ...
3	鏡→お妃	But Snowdrop is fairer far than you.
4	お妃→狩人	You must kill her, and bring me back her lungs ...
5	作者→読者	... but cleaner and neater than anything you can imagine.
6	小人→白雪姫	Why did you come to our house?
7	小人→白雪姫	Will you stay and keep house for us, cook, make the beds ...
8	小人→白雪姫	... if you give satisfaction and keep everything neat and ...
9	小人→白雪姫	... you shall want for nothing.
10	白雪姫→小人	I will gladly do all you ask.
11	小人→白雪姫	She will soon find out you are here ...
12	小人→白雪姫	... whatever you do don't let anyone in ...
13	鏡→お妃	My Lady Queen, you are fair, 'tis true ...
14	鏡→お妃	But Snowdrop is fairer far than you ...
15	鏡→お妃	... Is as fair as you, as fair again.
16	白雪姫→お妃	Good-day, mother, what have you to sell?
17	お妃→白雪姫	... what a figure you've got.
18	お妃→白雪姫	Come! I'll lace you up properly for once.
19	お妃→白雪姫	Now you are no longer the fairest, ...
20	作者→読者	... you may think what a fright they got when they saw ...
21	小人→白雪姫	In future you must be sure to let no one in, ...
22	鏡→お妃	My Lady Queen, you are fair, 'tis true ...
23	鏡→お妃	But Snowdrop is fairer far than you.
24	鏡→お妃	... Is as fair as you, as fair again.
25	白雪姫→お妃	You must go away, for I may not let anyone in ...
26	お妃→白雪姫	But surely you are not forbidden to look out?
27	お妃→白雪姫	Now I'll comb your hair properly for you ...
28	お妃→白雪姫	Now, my fine lady, you're really done for this time, ...

29	鏡→お妃	My Lady Queen, you are fair, 'tis true, ...
30	鏡→お妃	But Snowdrop is fairer far than you.
31	鏡→お妃	... Is as fair as you, as fair again ...
32	お妃→白雪姫	Are you afraid of being poisoned?
33	お妃→白雪姫	I'll eat the white cheek and you can eat the red.
34	お妃→白雪姫	... the Dwarfs won't be able to bring you back to life.
35	鏡→お妃	You are most fair, my Lady Queen, ...
36	王子→小人	I'll give you whatever you like for it.
37	王子→小人	I'll give you whatever you like for it.
38	王子→白雪姫	You are with me, ...
39	王子→白雪姫	I love you better than anyone in the whole wide world.
40	王子→白雪姫	Will you come with me to my father's palace ...
41	鏡→お妃	My Lady Queen, you are fair, 'tis true, ...
42	鏡→お妃	But Snowdrop is fairer far than you.

表(8)から、5番と20番以外のデータは会話から抽出されていることがわかる。『白雪姫』では you が高頻度で使用され、かつその大部分が会話である点を踏まえると、会話から登場人物の特徴や状況などを読者に推測させる働きがあるのではないかと考えられる。

3. 『白雪姫』の分析

3.1 会 話

2人称代名詞の有無に関わらずテキストに登場する全ての会話を調べると、19の場面に分けることができる(表(9))。3番目の列に該当する発話と日本語訳を記す。日本語訳については青空文庫よりダウンロードした⁽²⁾。なお青空文庫にならって、日本語訳の《 》はルビ、#は入力者の注を示す。

(9)

類出順	発話人物	発 話
1	白雪姫実母	'Oh! what wouldn't I give to have a child as white as snow, as red as blood, and as black as ebony!' 「どうかして、わたしは、雪のようにからだ白く、血のように赤いうつくしいほったをもち、このこくたん [#「こくたん」に傍点] のわくのように黒い髪《かみ》をした子がほしいものだ。」
2	お妃, 鏡	お妃: 'Mirror, mirror, hanging there, Who in all the land's most fair?' 「鏡《かがみ》や、鏡, 壁《かべ》にかかっている鏡よ。 国じゅうで、だれがいちばんうつくしいか、いっておくれ。」 鏡: 'You are most fair, my Lady Queen, None fairer in the land, I ween.' 「女王さま、あなたこそ、お国でいちばんうつくしい。」
3	お妃, 鏡	鏡: 'My Lady Queen, you are fair, 'tis true, But Snowdrop is fairer far than you.'

		「女王《じょおう》さま、ここでは、あなたがいちばんうつくしい。けれど、白雪姫《しらゆきひめ》は、千ばいもうつくしい。」
4	お妃, 狩人	お妃: 'Take the child out into the wood, and never let me see her face again. You must kill her, and bring me back her lungs and liver, that I may know for certain she is dead.' 「あの子を、森の中につれていっておくれ。わたしは、もうあの子を、二どと見たくないんだから。だが、おまえはあの子をころして、そのしょうこに、あの子の血《ち》を、このハンケチにつけてこなければなりません。」
5	狩人, 白雪姫	白雪姫: 'Oh, dear Huntsman, spare my life, and I will promise to fly forth into the wide wood and never to return home again.' 「ああ、かりうどさん、わたしを助けてちょうだい。そのかわり、わたしは森のおくの方にはいって行って、もう家にはけっしてかえらないから。」 狩人: 'Well, run along, poor child.' 'The wild beasts will soon eat her up.' 「じゃあ、はやくおにげなさい。かわいそうなお子さまだ。」「きっと、けものが、すぐでてきて、くいこころしてしまうだろう。」
6	小人たち	小人1: 'Who's been sitting on my little chair?' 「だれか、わしのいすに腰《こし》をかけた者があるぞ。」 小人2: 'Who's been eating my little loaf?' 「だれか、わしのお皿《さら》のものをすこしたべた者があるぞ。」 小人3: 'Who's been tasting my porridge?' 「だれか、わしのパンをちぎった者があるぞ。」 小人4: 'Who's been eating out of my little plate?' 「だれか、わしのやさいをたべた者があるぞ。」 小人5: 'Who's been using my little fork?' 「だれかわしのフォークを使った者があるぞ。」 小人6: 'Who's been cutting with my little knife?' 「だれか、わしのナイフで切った者があるぞ。」 小人7: 'Who's been drinking out of my little tumbler?' 「だれか、わしのさかずきでのんだ者があるぞ。」 小人1: 'Who's been lying on my bed?' 「だれか、わしの寝どこにはいりこんだのだ。」 小人: 'Somebody has lain on ours.' 「わしの寝どこにも、だれかがねたぞ。」 小人: 'Goodness gracious!' 'what a beautiful child!' 「おやおやおやおや、なんて、この子は、きれいなんだろう。」
7	白雪姫, 小人たち	白雪姫: 'I am Snowdrop.' 「わたしの名まえは、白雪姫というのです。」 小人: 'Why did you come to our house?' 「おまえさんは、どうして、わたしたちの家《うち》にはいってきたのかね。」 小人: 'Will you stay and keep house for us, cook, make the beds, the washing, sew and knit? and if you give satisfaction and keep everything neat and clean, you shall want for nothing.' 「もしも、おまえさんが、わたしたちの家の中のしごとをちゃんと引きうけて、にたきもすれば、おとこものべるし、せんたくも、ぬいものも、あみものも、きちんときれいにする気があれば、わたしたちは、おまえさんを家《うち》においてあげて、なんにもふそくのないようにしてあげるんだが。」 白雪姫: 'Yes,' 'I will gladly do all you ask.'

		<p>「どうぞ、おねがいします。」</p> <p>小人：'Beware of your step-mother. She will soon find out you are here, and whatever you do don't let anyone into the house.'</p> <p>「おまえさんのまま母さんに用心なさいよ。おまえさんが、ここにいることを、すぐ知るにちがいない。だから、だれも、この家の中にいれてはいけないよ。」</p>
8	お妃、鏡	<p>お妃：'Mirror, mirror, hanging there, Who in all the land's most fair?'</p> <p>「鏡や、鏡、壁《かべ》にかかっている鏡よ。</p> <p>国じゅうで、だれがいちばんうつくしいか、いっておくれ。」</p> <p>鏡：'My Lady Queen, you are fair, 'tis true, But Snowdrop is fairer far than you. Snowdrop, who dwells with the seven little men, Is as fair as you, as fair again.'</p> <p>「女王《じょおう》さま、ここでは、あなたがいちばんうつくしい。けれども、いくつも山こした、七人の小人の家にいる白雪姫《しらゆきひめ》は、まだ千ばいもうつくしい。」</p>
9	お妃、白雪姫	<p>お妃：'Fine wares to sell, fine wares to sell!'</p> <p>「よい品物《しなもの》がありますが、お買いになりませんか。」</p> <p>白雪姫：'Good-day, mother, what have you to sell?'</p> <p>「こんにちは、おかみさん、なにがあるの。」</p> <p>お妃：'Good wares, fine wares,' 'laces of every shade and description,' and she held one up that was made of some gay coloured silk.</p> <p>「上等《じょうとう》な品で、きれいな品を持ってきました。いろいろかわったしめひもがあります。」</p> <p>白雪姫：'Surely I can let the honest woman in,'</p> <p>「この正直《しょうじき》そうなおかみさんなら、家の中にいれてもかまわないだろう。」</p> <p>お妃：'Good gracious! child,' 'what a figure you've got. Come! I'll lace you up properly for once.'</p> <p>「おじょうさんには、よくにあうことでしょう。さあ、わたしがひとつよくむすんであげましょう。」</p> <p>お妃：'Now you are no longer the fairest,'</p> <p>「さあ、これで、わたしが、いちばんうつくしい女になったのだ。」</p>
10	小人たち、白雪姫	<p>小人：'Depend upon it, the old peddler wife was none other than the old Queen. In future you must be sure to let no one in, if we are not at home.'</p> <p>「その小間物売《こまものう》りの女こそ、鬼《おに》のような女王にちがいない。よく気をつけなさいよ。わたしたちがそばにいないときには、どんな人だって、家にいれないようにするんですよ。」</p>
11	お妃、鏡	<p>お妃：'Mirror, mirror, hanging there, Who in all the land's most fair?'</p> <p>「鏡や、鏡、壁《かべ》にかかっている鏡よ。</p> <p>国じゅうで、だれがいちばんうつくしいか、いっておくれ。」</p> <p>鏡：'My Lady Queen, you are fair, 'tis true, But Snowdrop is fairer far than you. Snowdrop, who dwells with the seven little men, Is as fair as you, as fair again.'</p> <p>「女王さま、ここでは、あなたがいちばんうつくしい。けれども、いくつも山こした、</p>

		<p>七人の小人《こびと》の家にいる白雪姫は、まだ千ばいもうつくしい。」</p> <p>お妃：‘This time,’ I will think of something that will make an end of her once and for all.’</p> <p>「だが、こんどこそは、おまえを、ほんとうにころしてしまうようなことを工夫《くふう》してやるぞ。」</p>
12	お妃, 白雪姫	<p>お妃：‘Fine wares for sale.’</p> <p>「よい品物《しなもの》がありますが、お買いになりませんか。」</p> <p>白雪姫：‘You must go away, for I may not let anyone in.’</p> <p>「さあ、あっちにいってちょうだい。だれも、ここにいけないことになっているんですから。」</p> <p>お妃：‘But surely you are not forbidden to look out?’</p> <p>「でも、見るだけなら、かまわないでしょう。」</p> <p>お妃：‘Now I’ll comb your hair properly for you, for once in the way.’</p> <p>「では、わたしが、ひとつ、いいぐあいに髪《かみ》をといてあげましょう。」</p> <p>お妃：‘Now, my fine lady, you’re really done for this time,’</p> <p>「いくら、おまえがきれいでも、こんどこそおしまいだらう。」</p>
13	お妃, 鏡	<p>お妃：‘Mirror, mirror, hanging there, Who in all the land’s most fair?’</p> <p>「鏡や、鏡、壁《かべ》にかかっている鏡よ。</p> <p>国じゅうで、だれがいちばんうつくしいか、いっておくれ。」</p> <p>鏡：‘My Lady Queen, you are fair, ’tis true, But Snowdrop is fairer far than you. Snowdrop, who dwells with the seven little men, Is as fair as you, as fair again.’</p> <p>「女王さま、ここでは、あなたがいちばんうつくしい。けれども、いくつも山こした、七人の小人の家にいる白雪姫は、まだ千ばいもうつくしい。」</p> <p>お妃：‘Snowdrop shall die,’ ‘yes, though it cost me my own life.’</p> <p>「白雪姫のやつ、どうしたって、ころさないではおくものか。たとえ、わたしの命がなくなっても、そうしてやるのだ。」</p>
14	お妃, 白雪姫	<p>白雪姫：‘I may not let anyone in, the seven Dwarfs have forbidden me to do so.’</p> <p>「七人の小人が、いけないといいましたから、わたしは、だれも中にいれるわけにはいきません。」</p> <p>お妃：‘Are you afraid of being poisoned?’ ‘See, I will cut this apple in half. I’ll eat the white cheek and you can eat the red.’</p> <p>「おまえさんは、毒《どく》でもはいていると思いなさるのかね。まあ、ごらんなさい。このとおり、二つに切って、半分はわたしがたべましょう。よくうれた赤い方を、おまえさんおあがりなさい。」</p> <p>お妃：‘As white as snow, as red as blood, and as black as ebony, this time the Dwarfs won’t be able to bring you back to life.’</p> <p>「雪のように白く、血《ち》のように赤く、こくたん [#「こくたん」に傍点] のように黒いやつ、こんどこそは、小人《こびと》たちだって、助けることはできまい。」</p>
15	お妃, 鏡	<p>お妃：‘Mirror, mirror, hanging there, Who in all the land’s most fair?’</p> <p>「鏡や、鏡、壁《かべ》にかかっている鏡よ。</p> <p>国じゅうで、だれがいちばんうつくしいか、いっておくれ。」</p>

		鏡：‘You are most fair, my Lady Queen, None fairer in the land, I ween.’ 「女王さま、お国でいちばん、あなたがうつくしい。」
16	小人たち	小人：‘We can't hide her away in the black ground.’ 「まあ見ろよ。これを、あのまっ黒い土の中に、うめることなんかできるものか。」
17	小人たち、王子	王子：‘Give me the coffin. I'll give you whatever you like for it.’ 「この棺《かん》を、わたしにゆずってくれませんか。そのかわりわたしは、なんでも、おまえさんたちのほしいと思うものをやるから。」 小人：‘No; we wouldn't part with it for all the gold in the world.’ 「たとえわたしたちは、世界じゅうのお金を、みんないただいても、こればかりはさしあげられません。」 王子：‘Well, then,’ ‘give it to me, because I can't live without Snowdrop. I will cherish and love it as my dearest possession.’ 「そうだ、これにかわるお礼なんぞあるもんじゃあない。だがわたしは、白雪姫を見ないでは、もう生きていられない。お礼なぞしないから、ただください。わたしの生きているあいだは、白雪姫をうやまい、きっとそまつにはしないから。」
18	白雪姫、王子	白雪姫：‘Oh! dear me, where am I?’ 王子：‘You are with me,’ ‘I love you better than anyone in the wholewide world. Will you come with me to my father's palace and be my wife?’ 「おやまあ、わたしは、どこにいますか。」 「わたしのそばにいますよ。」 「わたしは、あなたが世界じゅうのなにもよりもかわいいのです。さあ、わたしのおとうさんのお城《しろ》へいっしょにいきましょう。そしてあなたは、わたしのお嫁《よめ》さんになってください。」
19	お妃、鏡	お妃：‘Mirror, mirror, hanging there, Who in all the land's most fair?’ 「鏡や、鏡、壁《かべ》にかかっている鏡よ。 国じゅうで、だれがいちばんうつくしいか、いっておくれ。」 鏡：‘My Lady Queen, you are fair, 'tis true, But Snowdrop is fairer far than you.’ 「女王さま、ここでは、あなたがいちばんうつくしい。 けれども、わかい女王さまは、千ばいもうつくしい。」

3.2 考 察

表(9)に示した発話者を見ると、興味深い事実が明らかになる。鏡はつねにお妃との会話に限定されるのに対し(表(9) 2, 3, 8, 11, 13, 15, 19), それ以外の人物は複数の人物との会話の確認される(白雪姫の母親と狩人は発話が1件ずつなので除外する)。例えば、お妃は鏡だけでなく白雪姫や狩人との会話もある(表(9) 4, 9, 12, 14)。小人も小人どうしの会話だけでなく、白雪姫と王子との会話も登場する(表(9) 7, 10, 17)。最後に登場する王子も小人与白雪姫との会話を観察される(表(9) 17, 18)。鏡はつねに限定的な環境の中で会話が行われていると言えるが、これは何を意味しているのだろうか。例えば、表(9) 2の会話を見てみよう。(10)に再度提示する。

- (10) お妃：‘Mirror, mirror, hanging there,
Who in all the land's most fair?’

鏡：‘You are most fair, my Lady Queen,
None fairer in the land, I ween.’

お妃の発話はこの国の中で一番美しい人物を知らないので、鏡に「誰が一番美しいのか」と尋ねる wh 疑問文だろうか。お妃は自分が一番美しいし、そうでなければならぬと考えているが、鏡にその答えをあえて言わせていると捉えることができる。通常の wh 疑問文ならば、お妃の問いの後に鏡が(11)のように答えたとしても、白雪姫に嫉妬心を抱き、殺してしまおうとは思わないだろう。

(11) 鏡：But Snowdrop is fairer far than you.

1.2 節で概説したように、Mahlberg (2012) は単語の連なり（クラスター）が登場人物を理解する手がかりになると指摘している。KWIC 検索の結果（表(8)）を Sort 機能にかけると、対象語を中心としてどのような単語が前後に現れているか視覚的に確認できる。42 件の発話のうち 3 つは同じパターンを 2 回以上使用していた。該当する発話のみを抜き出すと表(12)ようになる。なお Mahlberg (2012) は 5 語のかたまりから成るクラスターに限定しているが、表(12)は意味も考慮して 5 語以上のクラスターとなっている。例えば、1 と 35 の発話である You are most fair, my Lady Queen を 5 語で区切ると You are most fair, my となるが、どちらの場合も発話数に違いはない。

(12)

表(9)の頻出番号	発話者	発話
1, 35	鏡→お妃	You are most fair, my Lady Queen ...
2, 13, 22, 29, 41	鏡→お妃	My Lady Queen, you are fair, 'tis true ...
15, 24, 31	鏡→お妃	Is as fair as you, as fair again ...

表(12)の 3 つの発話はどれも鏡がお妃に対して述べた発話であり、you のほかに共通して fair も用いられている。鏡とお妃の会話は他の人物の会話と比べて、重要な意図が隠されているのではないかと推測される。お妃は鏡以外の人物とも会話をしている点を踏まえると、(13)に示す 2 つの疑問が浮上する。

- (13) a. お妃を伴う会話は、発話相手によって違いがあるのだろうか。
b. もし違いがあるとしたら、統計的に証明できるのだろうか。

3.3 統計的分析⁽³⁾

3.3.1 はじめに

表(14)は、表(9)の中からお妃を含む会話を取り出し、3 番目の列にアルファベット順で示したものである。

(14)

	発話人物	お妃との会話
1	白雪姫の実母	
2	お妃, 鏡	A

3	お妃, 鏡	B
4	お妃, 狩人	C
5	狩人, 白雪姫	
6	小人たち	
7	白雪姫, 小人たち	
8	お妃, 鏡	D
9	お妃, 白雪姫	E
10	白雪姫, 小人たち	
11	お妃, 鏡	F
12	お妃, 白雪姫	G
13	お妃, 鏡	H
14	お妃, 白雪姫	I
15	お妃, 鏡	J
16	小人たち	
17	小人たち, 王子	
18	白雪姫, 王子	
19	お妃, 鏡	K

お妃を含む会話は、A から K の 11 件で構成されている。2.2 節と同様の手順で A から K で使用されている高頻度語を AntConc を用いて調べたところ、上位 20 語は(15)のようになった。カッコには該当語の頻数を示す。また発話の特徴に焦点を当てるため、機能語と内容語の両方を含める。

(15) お妃を含む会話の高頻度語

you (27), the (20), fair (19), as (15), in (13), mirror (12), I (11), are (10), is (9), my (9), snowdrop (9), who (9), for (8), lady (8), land (8), most (8), all (7), and (7), fairer (7), queen (7)

3.3.2 クラスタ分析

3.3.2.1 はじめに

(15)に示した高頻度語の中から上位 10 語に焦点を当て(16)、お妃を含む会話の分類を試みる。

(16) you, the, fair, as, in, mirror, I, are, is, my

A から K を頻度解析にかけ、(16)の 10 語について語彙頻度を確かめた。その結果が表(17)の通りである。

(17)

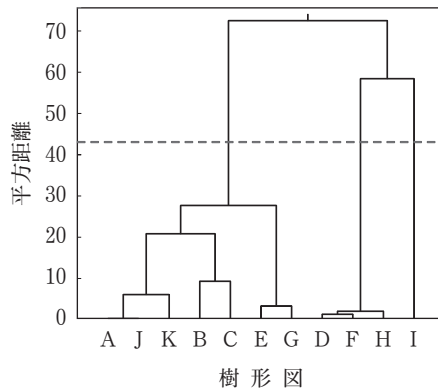
	you	the	fair	as	in	mirror	I	are	is	my
A	1	2	2	0	2	2	1	1	0	1

B	2	0	1	0	0	0	0	1	1	1
C	1	2	0	0	0	0	1	0	1	0
D	3	2	4	3	1	2	0	1	2	1
E	4	2	0	0	1	0	2	1	0	0
F	3	2	4	3	1	2	1	1	2	1
G	4	1	0	0	2	0	2	1	0	1
H	3	2	4	3	1	2	0	1	2	2
I	3	4	0	6	2	0	3	1	0	0
J	1	2	2	0	2	2	1	1	0	1
K	2	1	2	0	1	2	0	1	1	1
Total	27	20	19	15	13	12	11	10	9	9

3.3.2.2 結 果

クラスター分析の結果を見てみよう。本分析には Excel[®] 上で動作する「多変量解析システム Seagull-Stat」を使用した。また、クラスター間非類似度計算にはウォード法を使用し、クラスター数は3とした。個体間の類似度に基づいて、最も似ている個体から順番にクラスターを作成する階層的クラスターを用いた結果、図(18)のデンドログラムが得られた。

(18)



樹形図

デンドログラムを見るとはじめに A と J、2 番目に D と F、3 番目に {D, F} と H、4 番目に E と G という過程を経て最終的には A から K まで一つの大きなクラスターを形成している。また、「お妃と鏡」の会話である A, J, K が早い段階でクラスターを形成している。右側の D, F, H も「お妃と鏡」の発話であるが、こちらも一つのクラスターを形成していることがわかる。さらに、「お妃と白雪姫」の会話の E と G が早期に融合している。このことから、お妃は話し相手によって語の選択が異なると推測され、語彙頻度上位 10 語からも大部分が分類できることが証明された。しかし、(19)に示す 2 つの疑問が生じる。

(19) a. 「お妃と鏡」の会話がなぜ左端のクラスター {A, J, K} と右端のクラスター {D, F, H} に分

断されているのか。

- b. Bも「お妃と鏡」の会話であるが、なぜC（お妃と狩人）の発話と最も近い関係にあるのか。

これらの課題を次節で検討していく。

3.3.3 考察

3.3.3.1 疑問1 (19a)

第2クラスター {D, F, H} は第1クラスター {A, B, C, E, G, J, K} と融合する前に第3クラスター {I} と融合している。したがって、第2クラスターと第3クラスターで見られる共通点を探ることによって、第1クラスターと第2クラスターの相違点を検証していく。

表(17)を見ると、asは第1クラスターに分類されるケースからは観察されていないことがわかる。例えば、第1クラスターに所属するKと第2クラスターに所属するFを比較してみよう。(20)と(21)にそれぞれ示す。

(20) お妃: 'Mirror, mirror, hanging there,
Who in all the land's most fair?'

鏡: 'My Lady Queen, you are fair, 'tis true,
But Snowdrop is fairer far than you.'

(21) お妃: 'Mirror, mirror, hanging there,
Who in all the land's most fair?'

鏡: 'My Lady Queen, you are fair, 'tis true,
But Snowdrop is fairer far than you.
Snowdrop, who dwells with the seven little men,
Is as fair as you, as fair again.'

お妃: 'This time,' 'I will think of something that will make an end of her once and for all.'

(21)では同等比較表現“as...as”が用いられており、これはDとHにも当てはまる。次に第3クラスターに含まれるasも見てみよう。(22)に関連する部分を抜粋する。

(22) 'As white as snow, as red as blood, and as black as ebony, this time the Dwarfs won't be able to bring you back to life.'

(22)においてもasを用いた同等比較表現が含まれている。このことから、第2クラスターと第3クラスターは、同等比較表現のasが白雪姫を描写するために使用されており、これが第1クラスターとを分離している要因になっていると考えられる。

3.3.3.2 疑問2 (19b)

上述したように、「お妃と鏡」の発話は左端と右端に分断されているものの、2つのクラスターにまとまっていることが証明された。しかし「お妃と鏡」の会話であるBは、はじめにC（お妃と狩人）の会話と結合している。なぜBはこのように振るまいが異なるのだろうか。表(17)に基づくと、BとCは他のケースと異なってinとmirrorが1回も確認されていない。BとCの会話を(23)と(24)にそれぞれ示す。

㉓ 鏡：'My Lady Queen, you are fair, 'tis true,
But Snowdrop is fairer far than you.'

㉔ お妃：'Take the child out into the wood, and never let me see her face again. You must kill her, and bring me back her lungs and liver, that I may know for certain she is dead.'

他の会話と比較すると、BとCの特徴が明白になる。BとCはそれぞれ二人の会話であるが、どちらも一方の発話のみが記載されている。例えばBは「お妃と鏡」の会話であるが、実際には鏡の発話のみ登場している。しかし読者は、㉓の前に㉔のようなお妃の発話があったらと推測できる。

㉕ 'Mirror, mirror, hanging there,
Who in all the land's most fair?'

Cはお妃が自分よりも白雪姫のほうが美しいということを知り、狩人に白雪姫を森へ連れて行って殺すように命令した発話である。本来ならばお妃の発話の後に狩人の発話が期待される場所であるが、狩人の発話はなく森の場面へと話が進行している。BとCは単に語選択の違いだけでなく、会話の性質も他と異なることが推測される。Bではお妃の質問は予測可能なので、鏡はわかりきった答えをしている。またCでは狩人の返事を省略することによって、お妃の命令に狩人が逆らうことはできないということが伝わってくる。したがって、お妃はBとCでは別の人物と会話をしているが、お妃が鏡や狩人を支配している状況が読み取れる。

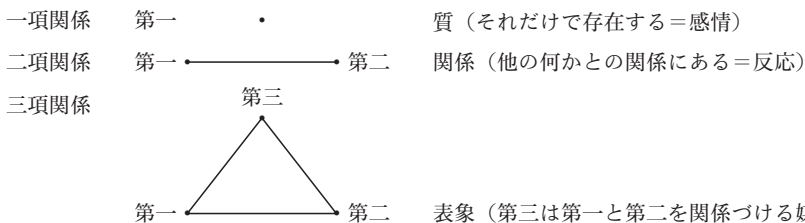
4. 白雪姫の人間関係

4.1 はじめに

由良（2012）によれば、白雪姫は「好奇心に満ちた健康な少女の成長」（2012：99）を表現している。例えば、行商人に扮したお妃のしめものから、櫛、リンゴ、そして最後にはガラスの棺は、少女から成熟した女性へのプロセスを表している。本節では表(9)の会話の人間関係に焦点を当て、『白雪姫』の結末とどのように結びついているのか考察していく。

Tomasello（2003）は、生後9～12ヶ月頃の子どもは自分・大人・対象物という「三項関係」を認識し始めるようになると指摘している。この概念は、有馬（2012）が紹介しているPeirceの「記号論」と共通するもので、㉖に示すように人間社会の営みを描くことができる。

㉖



（有馬 2012：44 に基づいて図示）

乳児は第一項から、第二項へ、そして最終的には第三項へというプロセスを経て人間社会に適合していく。生まれたばかりの乳児は自分の感情をそのまま全体で表現する。これは自分一人の世界を象徴しており、一項関係を表している。次第に乳児は自分の周囲に関心を示すようになる（二項関係）。そして、関心のあるものを目で追ったり、指で指したりする。最終的には、他者が指し示すものに関心を持つようになる（三項関係）。本分析では、一項、二項、三項関係を⑦のように定義し、文学作品の会話分析にも適用できることを示す。

- ⑦ 一項関係：話し手の一方的な発話
 二項関係：身近な人物との会話
 三項関係：身近な人物以外との会話

有馬（2012）はさらに、言語習得はチャンクを伴うと指摘している。これは Tomasello（2003）の用法基盤モデルでも仮定されていることである。例えば、子どもは「もっとアイス」「もっとおやつ」をかたまりとして習得し、次第にこの2つには共通して「もっと」が使われていることに気づく。そして、「もっとX」というようにXには「アイス」や「おやつ」以外のものも可能であると判断し、場面に応じて最適な表現を発話するようになる。このように親など身近な人の発話からチャンクを習得するということは何を意味するのだろうか。同じ構文であっても、親の話し方や単語の選択によって、子どもが初期に発話するパターンにも違いがあると推測される。例えば、Fukaya（2011）からもこの妥当性が証明される。4.2節にFukaya（2011）の一部を紹介しよう。

4.2 子どもの言語（Fukaya（2011））

4.2.1 はじめに

Crain and Lillo-Martin（1999）によれば、英語を母語とする2歳前後の子どもは(28a)のようなwhere疑問文を発話する。そして、2歳6ヶ月頃になると(28b)のような疑問文へと発展する。

- ②8 a. Where Daddy? (Crain and Lillo-Martin 1999 : 209)
 b. Where Daddy' going? (Crain and Lillo-Martin 1999 : 210)

②8は、(29a)から(29b)へと発達すると一般化できそうである。XにはDaddy以外の名詞も挿入できることを意味する。

- ②9 a. Where X?
 b. Where X's going?

しかしながら、子ども一人一人に着目すると、このような一般化はできないことがわかる。その一例として、Fukaya（2011）の中からNinaとAdamのデータを紹介する。そして、2歳前後の英語を母国語とする子どもは個人によって明確な特徴があり、これは入力の影響を受けることを提示する。

CHILDES (Child Language Data Exchange System) のデータベースの中からNinaとAdamのファイルをダウンロードし、それぞれの子どもが発話したwhere疑問文を抽出した。そして、③0のグループに分類した。カッコ内のx; y.zは年; 月. 日を表す。例えば2; 3.4は、当該の発話が2歳3ヶ月4日のものであることを示す。

- (30) Type 1 : where?
 Type 2 : where V? (e.x. Where go? (Adam, 2 ; 3. 4))
 Type 3 : where S? (e.x. Where kitty? (Sarah, 1 ; 11. 24))
 Type 4 : where S V? (e.x. Where Daddy go? (Adam, 2 ; 3. 4))
 Type 5 : where S Aux (be) V? (e.x. Where the man's truck should go? (Adam, 3 ; 4. 18))
 Type 6 : where's ('re) S? (e.x. Where's my pictures? (Nina, 2 ; 1. 6))
 Type 7 : where be S? (e.x. Where is my bottle? (Nina, 2 ; 3. 28))
 Type 8 : where Aux S V? (e.x. Where should I put this? (Sarah, 3 ; 10. 1))
 Type 9 : where do S V? (e.x. Where does your finger hurt? (Nina, 3 ; 0. 3))
 Type 10 : Others (e.x. Pin where? (Adam, 2 ; 4. 15))

次節で Nina と Adam の where 疑問文の発達を見ていく。なお紙面の関係上、(30)の10のタイプのうち特に重要だと思われる5つのタイプ(2, 3, 4, 6, 7)に限定する。

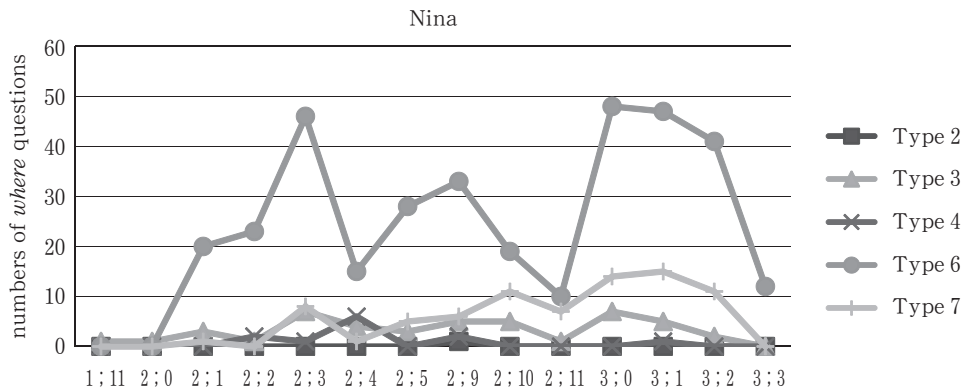
4.2.2 Nina の where 疑問文

Nina (1歳11ヶ月から3歳3ヶ月まで)の分析結果は表(31)と図(32)の通りである。

(31)

Age/Type	Type 2	Type 3	Type 4	Type 6	Type 7
1 ; 11	0	1	0	0	0
2 ; 0	0	1	0	0	0
2 ; 1	0	3	0	20	1
2 ; 2	0	1	2	23	0
2 ; 3	0	7	1	46	8
2 ; 4	0	4	6	15	1
2 ; 5	0	3	0	28	5
2 ; 9	1	5	2	33	6
2 ; 10	0	5	0	19	11
2 ; 11	0	1	0	10	7
3 ; 0	0	7	0	48	14
3 ; 1	0	5	1	47	15
3 ; 2	0	2	0	41	11
3 ; 3	0	0	0	12	0
Total	1	45	12	342	79

(32)



Type 6 に該当する where 疑問文は 2 歳 2 ヶ月から観察され、全体では 557 例中 342 例が Type 6 に該当する。また、Nina が発話した Type 6 は、主語が(33a)や(33b)のように単数形でも、また(33c)のように複数形でもすべて(34)のパターンだった。

- (33) a. Where's my other tiger? (2 ; 3. 5)
 b. Where's the orange juice? (2 ; 11. 16)
 c. Where's my pictures? (2 ; 1. 6)

(34) Where's X?

4.2.3 Adam の where 疑問文

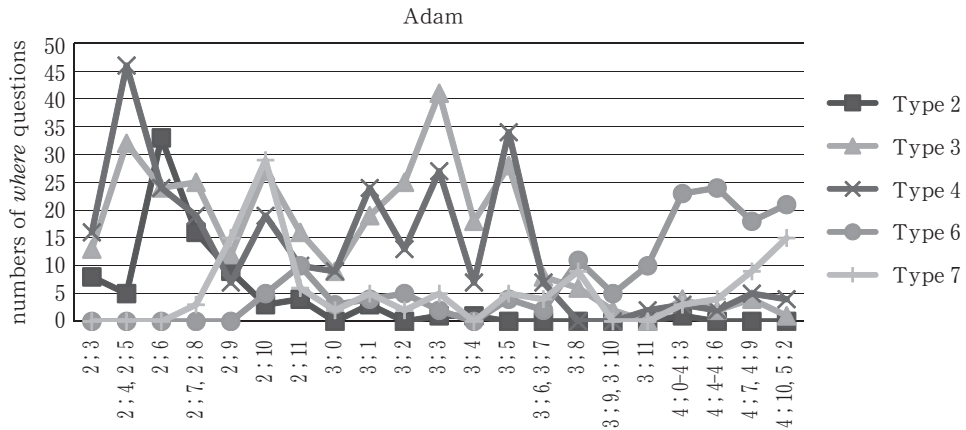
Adam は表(35)と図(36)に示すプロセスを経て発達することが示された。

(35)

Age/Type	Type 2	Type 3	Type 4	Type 6	Type 7
2 ; 3	8	13	16	0	0
2 ; 4, 2 ; 5	5	32	46	0	0
2 ; 6	33	24	24	0	0
2 ; 7, 2 ; 8	16	25	19	0	3
2 ; 9	9	12	7	0	15
2 ; 10	3	27	19	5	29
2 ; 11	4	16	10	10	6
3 ; 0	0	9	9	3	2
3 ; 1	3	19	24	4	5
3 ; 2	0	25	13	5	2
3 ; 3	1	41	27	2	5
3 ; 4	1	18	8	0	0
3 ; 5	0	28	34	4	5
3 ; 6, 3 ; 7	0	8	7	2	4
3 ; 8	0	6	0	11	9

3 ; 9, 3 ; 10	0	2	0	5	0
3 ; 11	0	0	2	10	0
4 ; 0-4 ; 3	1	4	3	23	3
4 ; 4-4 ; 6	0	2	2	24	4
4 ; 7, 4 ; 9	0	4	5	18	9
4 ; 10, 5 ; 2	0	1	4	21	15
Total	84	316	279	147	116

③6



図③6と Nina の図③2を比較すると, *where* 疑問文の発達は一樣ではないことは顕著である。Nina では Type 6 が初期から頻繁に発話されていたが, Adam では 2 歳 10 ヶ月になって初めて観察された。その代わりに, Types 2, 3, 4 が初期から発話されている。中でも動詞を伴う Type 2 と Type 4 に着目してみよう。表③7に示すように, 言語習得の初期段階ほど動詞は *go* に限定される。実際の発話が③8である。

③7 Numbers of *go* involving *where* questions in Type 2 and Type 4

Age range	<i>go</i> in T 2 & T 4	Total numbers of T 2 & T 4
2 ; 3-2 ; 6	128 (96.9%)	132
2 ; 7-3 ; 0	85 (89.4%)	95
3 ; 1-3 ; 5	64 (58.1%)	110

- ③8 a. Where *go*? (2 ; 3.4)
 b. Where Daddy *go*? (2 ; 3.4)
 c. Where racket *go*? (2 ; 3.18)

上記を踏まえると, Adam は Nina と異なり, (39a)や(39b)のパターンから *where* 疑問文が発達したと見なすことができる。

- ③9 a. Where *go*?
 b. Where X *go*?

4.2.4 母親の発話

それではなぜ子どもによって発達のプロセスが異なるのだろうか。この疑問に答えるため、Nina と Adam のファイルに収録されている母親の *where* 疑問文を抽出し、(30)のタイプに分類した。英語を母語とする大人は同じ文法を持っていると仮定されるが、実際の発話に相違があるのだろうか。

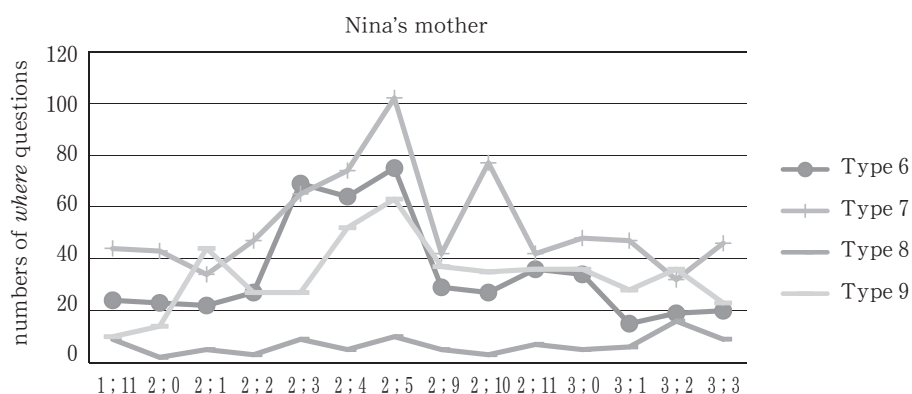
4.2.4.1 Nina の母親

Nina の母親の *where* 疑問文は以下の通りである。紙面の関係上、英語の大人の文法で文法的な 4 つのタイプ (6, 7, 8, 9) に限定する。

(40) Distribution of *where* questions in Nina's mother's speech

Age/Type	Type 6	Type 7	Type 8	Type 9
1 ; 11	24	44	9	10
2 ; 0	23	43	2	14
2 ; 1	22	34	5	44
2 ; 2	27	47	3	27
2 ; 3	69	65	9	27
2 ; 4	64	74	5	52
2 ; 5	75	102	10	63
2 ; 9	29	42	5	37
2 ; 10	27	77	3	35
2 ; 11	36	42	7	36
3 ; 0	34	48	5	36
3 ; 1	15	47	6	28
3 ; 2	19	32	16	36
3 ; 3	20	46	9	23
Total	484	743	94	468

(41)



Nina が言語習得の初期段階の時期に焦点を当ててみよう。母親は、*be* 動詞を伴う Type 6 と Type 7 を初期段階で最も頻繁に発話している。また *be* 動詞は連結 (*copula*)、進行形 (*progressive*) などに分類できるが、その大部分が連結 *be* 動詞として使用されている。この特徴は表(42)に示すように、Nina にも当てはまる。

(42) Distribution of copula *be*

T 6 & T 7 age range	Nina		Mother	
	Copula	Total	Copula	Total
1 ; 11-2 ; 2	41	44	235	264
2 ; 3-3 ; 0	228	236	595	774
3 ; 1-3 ; 3	119	121	108	176

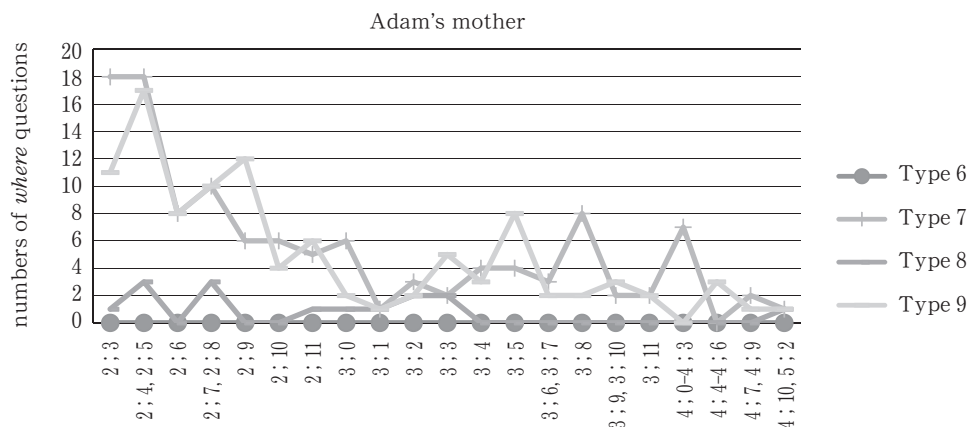
4.2.4.2 Adamの母親

Adamの母親の where 疑問は表(43)と図(44)の通りである。

(43)

Age/Type	Type 6	Type 7	Type 8	Type 9
2 ; 3	0	18	1	11
2 ; 4, 2 ; 5	0	18	3	17
2 ; 6	0	8	0	8
2 ; 7, 2 ; 8	0	10	3	10
2 ; 9	0	6	0	12
2 ; 10	0	6	0	4
2 ; 11	0	5	1	6
3 ; 0	0	6	1	2
3 ; 1	0	1	1	1
3 ; 2	0	3	2	2
3 ; 3	0	2	2	5
3 ; 4	0	4	0	3
3 ; 5	0	4	0	8
3 ; 6, 3 ; 7	0	3	0	2
3 ; 8	0	8	0	2
3 ; 9, 3 ; 10	0	2	0	3
3 ; 11	0	2	0	2
4 ; 0-4 ; 3	0	7	0	0
4 ; 4-4 ; 6	0	0	0	3
4 ; 7, 4 ; 9	0	2	0	1
4 ; 10, 5 ; 2	0	1	1	1
Total	0	116	15	103

(44)



Nina の母親と同様に, Adam の母親も Type 7 の発話数が最も多い。しかしながら, Adam の母親が発話した be 動詞を見ると, 連結 be 動詞は 1 例も該当しなかった。その代わりに進行形の be 動詞として用いられていた。進行形の be 動詞は全部で 115 例あるが, そのうち 109 例は going を伴っていた(45)。また, where's...? の Type 6 は 1 例も観察されなかったという点も Nina の母親と大きな違いである。

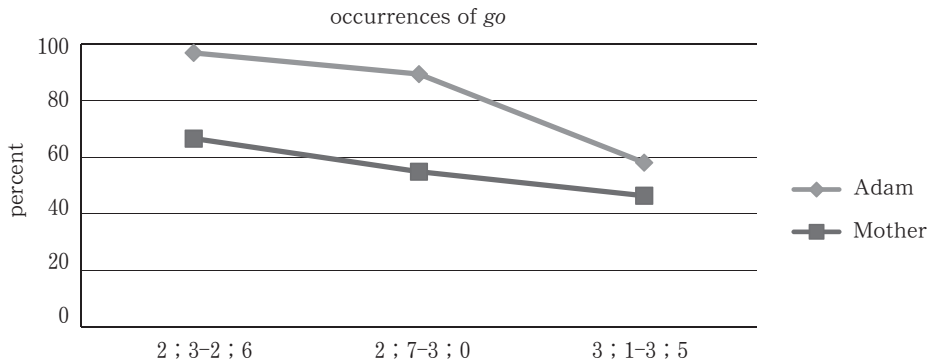
- (45) a. Where are you going to sit? (2 ; 3. 18)
 b. Where are you going? (2 ; 3. 18)
 c. Where are you putting that (.) Adam? (2 ; 7. 14)

さらに興味深いことに, Type 8 と Type 9 で用いられた動詞を調べると, Adam が小さければ小さいほど, 母親は go を使用していた。これは表(47)で示したように, Adam の where 疑問文にも当てはまる。表(46)と図(47)に母親と Adam の比較を示す。

(46)

Age range	Adam		Mother	
	go	Total (T 2 & T 4)	go	Total
2 ; 3-2 ; 6	128 (96.9%)	132	40 (66.6%)	60
2 ; 7-3 ; 0	85 (89.4%)	95	28 (54.9%)	51
3 ; 1-3 ; 5	64 (58.1%)	110	13 (46.4%)	28

(47)



4.2.5 まとめ

CHILDESを用いた Fukaya (2011) の研究から、子どもの発達プロセスは均一ではないことが証明された。また Tomasello (2003) や有馬 (2012) が指摘するように、(34)や(39)のような軸語を中心としたスキーマも確認された。そして言語習得の初期段階にある子どもは、親など身近な人間で構成された二項関係の世界で展開されており、入力の違いが子どもの発話パターンに影響を及ぼすと考えられる。

4.3 幼児向け作品から見る三項関係

幼児向けに書かれた作品は、三項関係に基づいて効果的に物語を展開している。例えば、日本語を母語とする2~4歳児向けに書かれた作品『くんくんふんふん』(オスターグレン晴子 文, エヴァ・エリクソン 絵)を見てみよう。

『くんくんふんふん』は子犬のポンテを中心とした物語で、(48)から始まる。

(48) くんくん ふんふん
 なんだろう この におい
 くんくん こっちだ

自分の家の裏山と思われるところで犬のお得意な「くんくんふんふん」をして、自然界を冒険している。だれかと会話をするのではなく、つねにポンテの気持ちがストレートに文字になっている。したがって、(27)に従うとポンテの一項関係と見なすことができる。物語も終盤になると、ポンテは落ち葉の中から手袋を見つけて喜んでいると、持ち主の女性が現れて、手袋を持って行ってしまった。これはまさに三項関係を象徴している。そして手袋を取られてしまいポンテはすねていると、慣れ親しんだ大好きなおいにおい気づく。自分の家に一目散に入ると玄関には脱ぎ捨てた靴下があって、しばらくすると自分のベッドで靴下と一緒に気持ちよさそうに寝ている場面でお話は終わる。ポンテの飼い主との会話は無いが、最後は飼い主のいる落ち着いた場所で終わっているため、二項関係が構築される場所を表している。したがって『くんくんふんふん』は、長い一項関係のあと三項関係を経て少しだけ大人になり、最後には二項関係が構築されていると解釈できる。

4.4 三項関係に基づいた分析

表(4)の会話を一項、二項、三項関係に分類するとどのようになるだろうか。(27)に従って分類すると表

(49)のようになる。紙面の関係上、一項関係をⅠ、二項関係をⅡ、三項関係をⅢとする。

(49)

	発話人物	タイプ
1	白雪姫の実母	Ⅰ
2	お妃, 鏡	Ⅱ
3	お妃, 鏡	Ⅱ
4	お妃, 狩人	Ⅰ
5	狩人, 白雪姫	Ⅱ
6	小人たち	Ⅱ
7	白雪姫, 小人たち	Ⅲ
8	お妃, 鏡	Ⅱ
9	お妃, 白雪姫	Ⅱ
10	白雪姫, 小人たち	Ⅱ
11	お妃, 鏡	Ⅱ
12	お妃, 白雪姫	Ⅱ
13	お妃, 鏡	Ⅱ
14	お妃, 白雪姫	Ⅱ
15	お妃, 鏡	Ⅱ
16	小人たち	Ⅱ
17	小人たち, 王子	Ⅲ
18	白雪姫, 王子	Ⅲ
19	お妃, 鏡	Ⅱ

お妃を含む会話に焦点を当てると、鏡、狩人、白雪姫というように常に身近な人物と会話をしている。つまり、お妃はきわめて狭い世界しか知らず、白雪姫に対する異常なまでの嫉妬心はこのような自分を閉ざした態度の象徴と言えよう。

それに対して白雪姫はどうであろうか。森の中へ連れて行かれ、小人との会話は三項関係を表している。ようやくお妃から解放されほっとしていると、鏡によって白雪姫の居場所を知れてしまう。お妃はしめひもや櫛、リングで白雪姫を殺そうとし、白雪姫が毒入りリングを食べると白雪姫は亡くなったかのように思われた。しかし運良く毒入りリングは口から出て、命を吹き返す。そして、白雪姫は2回目の三項関係となる王子と巡り会い、結婚する。最終的には(50)に示すように、お妃の死によって白雪姫はお妃からの解放に成功し、一人の人間としての自立を象徴していると見なすことができる。つまり白雪姫は、三項関係の世界を徐々に広げることによって自立を成し遂げることができたと見なすことができる。

(50) ... but red-hot iron shoeshad been prepared for the wicked old Queen, and she was made to get into them and dance till she fell down dead.

けれども、そのときは、もう人々がまえから石炭《せきたん》の火の上に、鉄《てつ》でつくったう

わぐつをのせておきましたのが、まっ赤にやけてきましたので、それを火ばしでへやの中に持ってきて、わるい女王さまの前におきました。そして、むりやり女王さまに、そのまっ赤にやけたくつをはかせて、たおれて死ぬまでおどらせました。

5. ま と め

本稿では『白雪姫』を取り上げ、言語学的、統計的な分析を試みた。その結果、you が高頻度で使用されていることがわかり、会話の重要性を指摘した。そして、クラスター分析ではお妃の会話相手によって大部分がグループに分けられることが示された。また、一項、二項、三項関係という概念を導入することにより、白雪姫とお妃を取り巻く世界の違いを明らかにした。グリム童話の他の作品においても you が高頻度で使用されているのか、また三項関係を用いて説明できるのかなどについては、今後の課題としていきたい。

《注》

- (1) テキストは <http://www.gutenberg.org/>より入手可能。
- (2) テキストは <http://www.aozora.gr.jp/>より入手可能。
- (3) 統計学を用いた言語研究については、石川・前田・山崎（編）（2012）を参照。また、日本語の小説を用いた統計分析も行われている。例えば、Rを用いた統計解析については伊藤（2012）を参照。

参考文献

- 有馬道子（2012）『もの忘れと記憶の記号論』岩波書店、東京。
- Brown, Roger (1973) *A First Language: The Early Stages*, Harvard University Press, Cambridge, MA.
- Crain, Stephen, and Diane Lillo-Martin (1999) *An Introduction to Linguistics Theory and Language Acquisition*, Blackwell, Oxford
- Fukaya, Nobuyo (2011) “A CHILDES-based Study of English Where-questions: The Important Role of Input in Language Development” in the *12th International Association for the Study of Child language*, the University of Quebec, Montreal.
- 石川慎一郎・前田忠彦・山崎誠（編）（2010）『言語研究のための統計入門』くろしお出版、東京。
- 伊藤尚枝（2012）『「甘えの心理」に迫る：Rでテキストを分析』北樹出版、東京。
- Lindquist, Hans (2009) *Corpus Linguistics and the Description of English*, Edinburgh University Press, Edinburgh.
- MacWhinney, Brian (2000) *The CHILDES Project: Tools for Analyzing Talk*. 3rd. ed. Vol. 2: The database. Lawrence Erlbaum Associates, Mahwah, NJ.
- Mahlberg, Michaela (2012) “The Corpus Stylistic Analysis of Fiction-or the Fiction of Corpus Stylistics?,” *Corpus Linguistics and Variation in English: Theory and Description*, ed. by Joybrato Mukherjee and Magnus Huber, 77-96, Rodopi, Amsterdam.
- オスターグレン晴子・エヴァエリクソン（2001）『くんくんふんふん』福音館書店、東京。
- Stubbs, Michael (2002) *Words and Phrases: Corpus Studies of Lexical Semantics*, Blackwell, Oxford.
- Tomasello, Michael (2003) *Constructing a Language: A Usage-Based Theory of Language Acquisition*, Harvard University Press, Cambridge.
- 由良弥生（2012）『大人も眠れないほど恐ろしい 初版「グリム童話」』三笠書房、東京。